

平成 25 年度海老名市介護保険運営協議会第 2 回会議 結果

日 時：平成 25 年 10 月 9 日（水）
午後 1 時 30 分～午後 2 時 40 分
場 所：海老名市役所 政策審議室

出席委員 12 名/14 名

高橋会長、山川副会長、池田委員、小賀坂委員、花田委員、平本委員、
樋口委員、橋本委員、内田委員、千葉委員、西海委員、三田委員

事務局（海老名市保健福祉部） 8 名

窪田保健福祉部長、清田保健福祉部次長、小澤高齢介護課長、吉崎高齢介護課
長補佐、萩原高齢者支援係長、山本主幹、藤本主査、内田

1. 開 会 （司会:小澤高齢介護課長）

2. あいさつ

（窪田保健福祉部長）

介護保険制度は高齢者の暮らしを支えるものとして、無くてはならない制度であり、昨年度末の要介護認定者は 3,351 人。高齢者の方の 12%を超える方が利用している。

介護保険事業特別会計の昨年度決算額は、51 億 7 千万円。毎年 3 億円ずつ増加している。

高齢化の進展とともに、介護保険財政の規模は年々大きくなる一方であり、全国の自治体の財政状況も年々、厳しくなっている。

国では、医療や介護・福祉・子育てなどの社会保障制度全体の改革に向けた取り組みが具体的に始まったところ。

今後、市でも、平成 27 年度からの第 6 期介護保険事業計画において反映させていくこととなる。

市としては、高齢者が安心して暮らせる介護保険制度となるよう、介護基盤整備の推進と健全な財政運営に努めていく。

（高橋会長）

介護保険制度は、平成 1 2 年度に創設されて以来、高齢者の暮らしを社会全体で支える仕組みとして、多くの方に利用されている。

しかし高齢者の増加に伴い、高齢者を取り巻く経済社会情勢は大きく変化してきており、介護保険制度も大きな曲がり角を迎えようとしている。

また、医療と介護との連携強化による、在宅での医療・介護へと、その方向性は大きくシフトしてきている。

医療と介護の連携を深める一方、地域をも取り組んだネットワークを形成し

ていくことが、極めて重要であり、介護保険と高齢者対策や高齢者福祉の観点を併せた、総合的な取り組みが必要となる。

安定的に高齢者の生活を支えていくためにも、介護保険制度の制度設計や運営に当たり、協議会としてこうした視点からの議論が重要な役割を担っている。

委員におかれては、さまざまな視点からのご意見をいただきたい。

※窪田部長、清田次長退席。

3. 議 題(進行:高橋会長)

(1) 地域包括ケア体制の推進について (資料1により事務局説明)

- ・住まい・医療・介護・生活支援・介護予防が継続し、一体的に提供されることにより、高齢者が住み慣れた地域で自立生活を送ることを支えることとなる。
- ・地域特性に応じたケア体制の構築に向けて、各分野の関係者が会する場の設置など、分野間相互の連携強化を図る。
- ・将来的には、連携拠点機能の整備を図り、システム活用等による情報共有化・ネットワーク化を進め、在宅医療と介護の連携推進に取り組んでいく。

委員:市内に連携拠点機能を有するものはあるのか?

→ (事務局) 現在はない。

委員:在宅医療(往診)可能な医療機関の情報は、どこにあるか?

市内で対応可能な医療機関は?

→ (会長) インターネットで閲覧可。医師会では訪問診察を進めており、かかりつけ医や訪看ステーションなどを活用されたい。

市内では、海老名中央医院などが活動しており、当該医師は在宅医療・介護の連携会議のメンバーとなっている。

委員:新たに設立する会議の構成メンバーは?

ケアシステムの構築に向けて、情報の提供を図られたい。

→(事務局) 医療・介護・地域・包括支援センター等をイメージしている。

必要な情報は提供していく。

(2) 第6期介護保険事業計画にかかる動向について

(資料2、資料3、参考資料1、参考資料2により事務局説明)

- ・第6期介護保険事業計画は、2025年に向け、地域包括ケアの実現及び在宅医療介護連携等について、取り組んでいくことが全体の方向性。
- ・社会保障制度改革国民会議の報告を受け、「法制上の措置」をとることが閣議決定され、介護保険法等の改正法案が次期国会冒頭に提出される予定。
- ・介護保険関係の想定改正内容
 - ・在宅医療、在宅介護の連携強化

- ・生活支援、介護予防の基盤整備
- ・認知症対策
- ・地域支援事業の見直し、要支援者への支援の見直し
- ・一定所得以上を有する者の利用者負担の見直し
- ・補足給付支給要件へ資産を勘案する等の見直し
- ・施設介護サービス費支給対象の見直し

(3)その他（追加資料等にて事務局説明）

①グループホームの開設について

- ・第5期計画に基づき整備されたグループホームが10/1開設
- ・市内5施設目。総床数は72。

②「海老名元気お裾分けクラブ」の活動状況について

- ・登録状況 クラブ員数 70名、施設数 16施設、在宅世帯数 33世帯
- ・活動状況 施設 13施設で39名が活動、在宅世帯 4世帯で3名が活動
- ・在宅利用者の評価は好評。

③高齢者施設の建設計画について

(有料老人ホーム(住宅型)・サービス付き高齢者向け専用住宅)

- ・介護保険施設ではないため、介護保険の適用外の施設

委員:介護ボランティアを行っているボランティアの意見交換の機会等はあるのか?

→(事務局)来年度の実施を検討中。

4. 閉会（山川副会長）

社会保障にかかる費用は増加の一途を辿っており、もはや抜本的改革を図らなければ、制度自体の存続も関わってくる状況。

国では社会保障制度の改革に取り組んでおり、見直しについての具体的な制度設計が、今後、なされる。

制度設計に当たっては、実際に制度を運用する自治体や利用者や自治体の意見を踏まえたものとし、混乱を招かずに、利用しやすい制度となるよう期待する。

介護サービスを利用しなくても、安心した生活を送っていくために、介護の状況にならないような、市の取り組みを図っていただきたい。

今後とも、さまざまな視点からのご意見をいただきたい。

以 上